

# ネオセンサ™ワイヤレス

## 室内用温度センサ 形TY7063Z000R

## 室内用温湿度センサ 形HTY7063Z000R

## RF受信機 形GY7020S0002

### ■概要

ネオセンサワイヤレスは、電子式の室内用センサです。

ネオセンサ、ネオスタット™と協調デザイン、寸法であり、温度検出素子に白金測温抵抗体（Pt100）（JIS C1604 A級）、湿度検出素子には高分子容量式湿度検出素子（弊社開発FP3™（エフピースリー））を使用した高精度高信頼度なセンサです。ネオセンサワイヤレスは、特定小電力無線を用いた室内用温度センサ/温湿度センサとRF受信機で構成されています。

壁面やパーティションなど居住者の近傍に設置された室内用センサが室内温度/湿度を測定し、天井裏に取り付けられたRF受信機に計測データを電波で伝送します。

この計測データは、RF受信機を介してコントローラ（Inflex™ AC/GC/GD/VC/FC）に送られます。本製品は、一般ビル空調をはじめ、いろいろな室内用途に応用できます。



### ■特長

- 省配線
  - 配線工事費を削減でき、工期の短縮化を図れます。
  - 難工事の場所に設置することができます。
- 柔軟性
  - 任意の場所で測定できます（壁面以外の設置も可能です）。
  - レイアウト変更時、簡単に移設できます。

#### 電波法に関する注意 !!

本製品は、電波法に基づく特定小電力無線機器として、技術基準適合証明を受けています。

次の点を守ってお使いください。

- 分解、改造をしないでください。  
分解、改造は法律で禁止されています。
- 銘板ラベルをはがさないでください。  
ラベルがないものの使用は禁止されています。
- 本製品は、日本国外での電波法には準拠していません。  
日本国内でご使用ください。

## 安全上の注意

ご使用前に本説明書をよくお読みのうえ、仕様範囲内で使用目的を守って、正しくお使いください。お読みになったあとは、本説明書をいつでも見られる所に必ず保管し、必要に応じ再読してください。

### 使用上の制限、お願い

本製品は、一般機器での使用を前提に、開発・設計・製造されています。

本製品の働きが直接人命にかかわる用途および、原子力用途における放射線管理区域内では、使用しないでください。一般空調制御用として本製品を放射線管理区域で使用する場合は、弊社担当者にお問い合わせください。

特に ・人体保護を目的とした安全装置 ・輸送機器の直接制御(走行停止など) ・航空機 ・宇宙機器など、安全性が必要とされる用途に使用する場合は、フェールセーフ設計、冗長設計および定期点検の実施など、システム・機器全体の安全に配慮した上で、ご使用ください。

システム設計・アプリケーション設計・使用方法・用途などについては、弊社担当者にお問い合わせください。

なお、お客様が運用された結果につきましては、責任を負いかねる場合がございますので、ご了承ください。

### ■ 設計推奨使用期間について

本製品については、設計推奨使用期間を超えない範囲でのご使用をお勧めします。

設計推奨使用期間とは、設計上お客様が安心して製品をご使用いただける期間を示すものです。

この期間を超えると、部品類の経年劣化などから製品故障の発生率が高まることが予想されます。

設計推奨使用期間は、弊社にて、使用環境・使用条件・使用頻度について標準的な数値などを基礎に、加速試験、耐久試験などの科学的見地から行われる試験を行って算定された数値に基き、経年劣化による機能上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した時期までの期間です。

本製品の設計推奨使用期間は、下表の通りです。

なお、設計推奨使用期間は、寿命部品の交換など、定められた保守が適切に行われていることを前提としています。

寿命部品については、保守の項を参照してください。

製品名	設計推奨使用期間
室内用温度センサ	15年
室内用温湿度センサ	8年
RF受信機	15年

### ■ 輸送時のお願い

本製品は、リチウム金属電池を使用しています。

本製品に使用するリチウム電池を同梱(組込)して航空 / 船舶輸送する場合は、IATA DGR / IMDG Code に従い輸送を行ってください。

輸送会社に「リチウム金属電池を使用した内容物」であることを伝え、輸送会社の指示に基づいた手続きをしてください。

法令に基づく表示などを行わずに空輸、海上輸送すると、航空法、並びに船舶安全法に抵触し、罰せられることがあります。

### ■ 「警告」と「注意」



警告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

### ■ 絵表示



記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を禁止する場合に表示(左図は分解禁止の例)。



記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を義務付けする場合に表示(左図は一般指示の例)。

### △ 注意



本製品は仕様に記載された使用条件(温度、湿度、電圧、振動、衝撃、取付方向、雰囲気など)の範囲内で使用してください。火災や故障の原因となるおそれがあります。



ペースメーカー使用者を本製品に近づけないでください。ペースメーカーに誤動作を与えるおそれがあります。



本製品の近くでトランシーバや特定小電力無線機器を使用しないでください。電波干渉して誤動作する原因となるおそれがあります。



本製品は医療用機器から1 m以上離して運用してください。医療用機器に誤動作を与えるおそれがあります。

⚠ 注 意



本製品は仕様に定められた定格の範囲で使用してください。  
守らないと故障の原因となるおそれがあります。



取り付けや結線は、安全のため、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。  
施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。



配線については、内線規程、電気設備技術基準に従って施工してください。  
施工を誤ると、火災のおそれがあります。



本製品内に配線くずや切り粉などを入れないでください。  
故障の原因となるおそれがあります。



端子ねじは確実に締めてください。  
締め付けが不完全だと発熱・火災の原因となるおそれがあります。  
(また、正しく計測できない場合があります)



本製品を分解しないでください。  
故障したり感電するおそれがあります。



本製品に定格以上の電圧を印加した場合は、安全のために新品に交換してください。  
そのまま使用すると、故障や発熱の原因となるおそれがあります。



本製品のバッテリーを交換する場合は、取扱説明書で取付方法を確認のうえ、正しく取り付けてください。

- 指定の同一タイプのものを使う。
- バッテリーの極性(＋、－)を逆にしない。

上記の注意事項を守らないと、バッテリーの発熱、破裂、液漏れの原因となるおそれがあります。

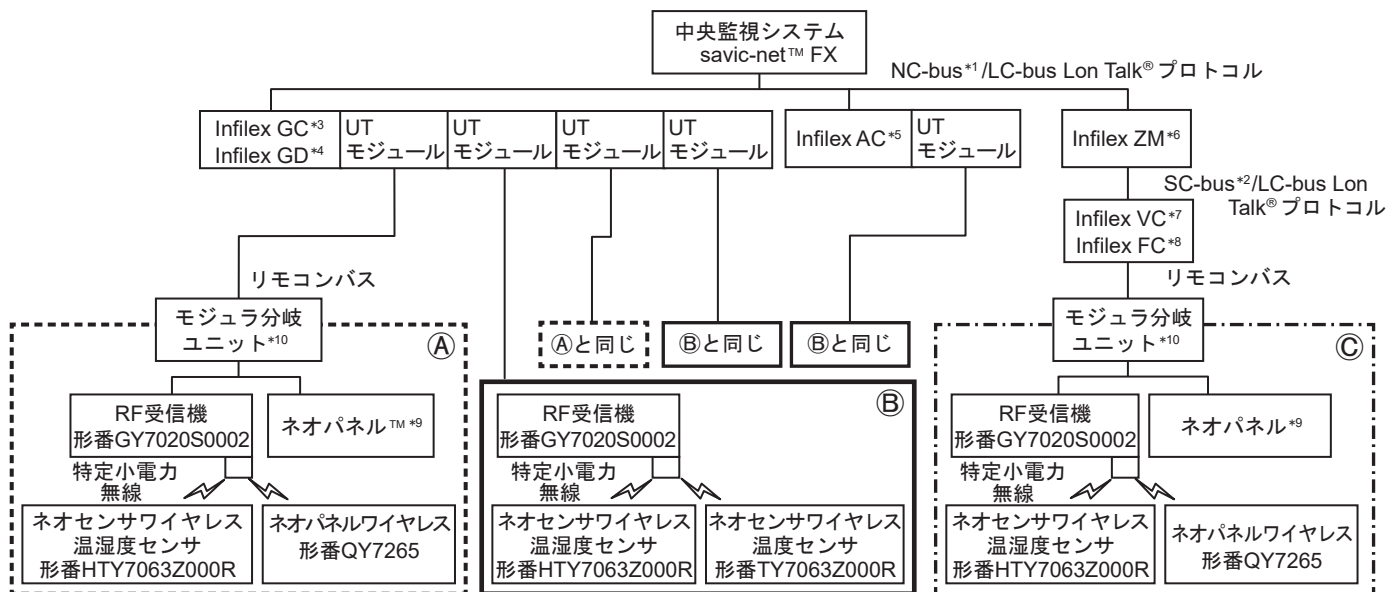


使用後のバッテリーは火中に投げたり、そのまま廃棄しないで、各自治体の条例に従って適切に処理してください。  
破裂したり発火の原因となります。

**重要!!** ●本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。  
故障の原因となります。

- 本製品の通風口に物を入れないでください。

## ■ システム構成



- \*1 NC-bus は、ニューコントローラバスの略称です。
- \*2 SC-bus は、サブコントローラバスの略称です。
- \*3 Inflex GC は、汎用コントローラです。
- \*4 Inflex GD は、汎用データギャザリングパネルです。
- \*5 Inflex AC は、エアハンドリングユニットコントローラです。

- \*6 Inflex ZM は、ゾーンマネージャです。
- \*7 Inflex VC は、VAV コントローラです。
- \*8 Inflex FC は、FCU ユニットコントローラです。
- \*9 ネオパネル2（形番QJ-1301）、またはネオパネル（形番QY7205/形番QY7215/形番QY7225）を接続できます。
- \*10 RF受信機は、モジュール分岐ユニット（形番DY7203A0000）を使用することで、ネオパネル2/ネオパネルと併設できます。

- ①② Inflex AC/GC/GDには、弊社UTモジュール（形番RY5001U0000）を用い、RF受信機を接続してください。  
次に制約を記載します。
- Inflex ACには、UTモジュールは1台まで
  - Inflex GC/GDには、UTモジュールは4台まで
  - Inflex AC/GC/GD1台につき、形番QY7205/形番QY7265は1台まで（ただし同一UTモジュール内での連動は可能）
  - UTモジュール1台につき、RF受信機は1台まで
  - RF受信機に対して形番HTY7063Z000R/形番TY7063Z000R/形番QY7265は、任意の組み合わせで2台まで
- ③ Inflex VC/FCには、直接RF受信機を接続してください。  
次に制約を記載します。  
(参照)『表1 Inflex VC/FC接続パターン』
- RF受信機は、1台まで
  - RF受信機に対して形番HTY7063Z000R/形番TY7063Z000R/形番QY7265は、任意の組み合わせで2台まで

図1 システム構成図

表1 Inflex VC/FC接続パターン

必要 設定器 台数	目的	UTアドレス					
		1			2		
		~	センサアドレス		~	センサ アドレス	
			0	1		0	1
なし	温度制御のみ	ネオセンサワイヤレス(温度)*1					
	温度制御+計測温度1点	ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオセンサワイヤレス(温度)				
	温度制御+計測湿度1点	ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1					
1台	温度制御のみ	ネオパネルワイヤレス*1					
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオパネルワイヤレス				
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1		ネオパネル(有線)			
	温度制御+計測温度1点	ネオパネルワイヤレス*1	ネオセンサワイヤレス(温度)				
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオパネルワイヤレス				
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオセンサワイヤレス(温度)	ネオパネル(有線)			
		ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1	ネオパネルワイヤレス				
温度制御+計測湿度1点	ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1		ネオパネル(有線)				
	ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1		ネオパネル(有線)				
2台	温度制御のみ	ネオパネルワイヤレス*1			ネオパネル(有線)		
		ネオパネルワイヤレス*1	ネオパネルワイヤレス				
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオパネルワイヤレス	ネオパネル(有線)			
	温度制御+計測温度1点	ネオパネルワイヤレス*1	ネオパネルワイヤレス				
		ネオパネルワイヤレス*1	ネオセンサワイヤレス(温度)	ネオパネル(有線)			
		ネオセンサワイヤレス(温度)*1	ネオパネルワイヤレス	ネオパネル(有線)			
		ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1	ネオパネルワイヤレス	ネオパネル(有線)			
温度制御+計測湿度1点	ネオセンサワイヤレス(温湿度)*1	ネオパネルワイヤレス	ネオパネル(有線)				

\* 還温度制御付比例タイプの場合、制御に用いる温度以外の温度計測・湿度計測ができません。

(注記)

- ネオパネル(有線) : ネオパネル2(形番QJ-1301) / ネオパネル(形番QY7205 / 形番QY7215 / 形番QY7225)  
 ネオパネルワイヤレス : 形番QY7265  
 ネオセンサワイヤレス(温度) : 形番TY7063  
 ネオセンサワイヤレス(温湿度) : 形番HTY7063

\*1 温度制御に使います。

## ■ 形 番

形 番	仕 様
TY7063Z000R	ネオセンサワイヤレス 室内用温度センサ ログあり
TY7063Z000R-1	ネオセンサワイヤレス 室内用温度センサ ログなし
HTY7063Z000R	ネオセンサワイヤレス 室内用温湿度センサ ログあり
HTY7063Z000R-1	ネオセンサワイヤレス 室内用温湿度センサ ログなし
GY7020S0002	RF受信機

## ■仕様

## ●ネオセンサワイヤレス

項目		仕様	
計測範囲	温度計測	0～50℃	
	湿度計測	10～90%RH	
検出精度（総合精度）	温度計測	±0.5℃（17～28℃において） ±1.5℃（0～50℃において、ただし17～28℃を除く）	
	湿度計測	±3%RH以内（30～70%RH at 25℃、基準精度） ±5%RH以内（20～80%RH at 15～35℃）	
時定数 （風速0.15 m/sにおいて）	温度計測	6 min以内（参考値）	
	湿度計測	1 min以内（参考値）	
使用環境条件	定格動作条件	0～50℃ 10～90%RH（結露なきこと） 振動 最大0.33 G（10～150 Hz）	
	輸送保管条件	-20～60℃ 5～90%RH（結露なきこと） 振動（保管） 最大0.33 G（10～150 Hz） 振動（輸送） 最大1 G（10～150 Hz、梱包状態）	
電源仕様	電源電圧	DC3 V（リチウム電池より供給）	
	電池寿命	3年（周囲温度15～35℃にて） 電池切れ予告信号付	
温度検出素子		白金測温抵抗体（Pt100）	
湿度検出素子		FP3™	
通信	特定小電力無線	通信周波数帯	426MHz帯
		チャンネル数	1～9チャンネル (参照) 『■設定作業 ●概要』
		センサ台数/ チャンネル	接続条件があります。 (参照) 『■設定作業 ●概要』
		グループ数	99グループ (参照) 『■設定作業 ●概要』
		伝送距離	約20 m（ただし、受信機とセンサ間に天井、オフィス什器以外の金属遮蔽物がない設置環境の場合）
		アドレス	制約事項があります。 (参照) 『表1 Inflex VC/FC接続パターン』
主要部材料		ポリカーボネート樹脂	
色		白	
質量		本体180 g（リチウム電池込） 取付プレート40 g	
付属部品		本体ユニット取付ねじ（M3、L=8 mm）2本 リチウム電池 取付プレート	

## ● RF受信機

項目		仕様	
電源仕様	定格電圧	DC7.0~16.0 V 上位コントローラより供給	
	消費電力	0.15 VA以下	
接続		コネクタ付きケーブル（形番940-SP-3088R）	
使用環境条件	定格動作条件	0~50 °C 10~90 %RH（結露なきこと） 振動 0.33 G以下（10~150 Hz）	
	輸送保管条件	-20~60 °C 5~95 %RH（結露なきこと） 振動（保管） 0.33 G以下（10~150 Hz） 振動（輸送） 1 G以下（10~150 Hz、梱包状態）	
通信	上位コントローラ通信	配線	LANケーブル EIA/TIA568（カテゴリ3以上）準拠 φ0.5×4P
		配線長	50 m以下
	特定小電力無線	通信周波数帯	426 MHz帯
		チャンネル数	1~9チャンネル (参照) 『■ 設定作業 ● 概要』
		受信機台数/ チャンネル	99台以下（設置位置の電波状況によっては、設置可能な台数が少なくなります） (参照) 『■ 設定作業 ● 概要』
		グループ数	99グループ (参照) 『■ 設定作業 ● 概要』
		伝送距離	約20 m（ただし、受信機とセンサ間に天井、オフィス什器以外の金属遮蔽物がない設置環境の場合）
接続台数 （受信機1台 当たり）	2台以下（システム構成による）		
主要部材料		変性PPE樹脂 UL-V0相当	
色		ライトグレー	
質量		300 g	

## ■ 外形寸法

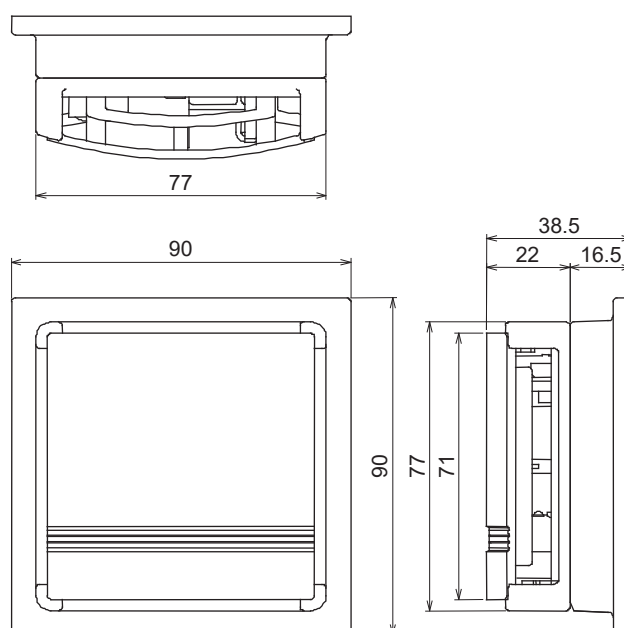


図2 ネオセンサワイヤレス外形図（単位：mm）



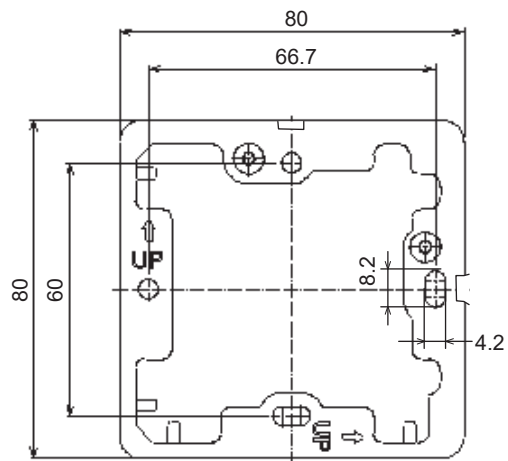


図3 取付プレート寸法表面外形図 (単位 : mm)

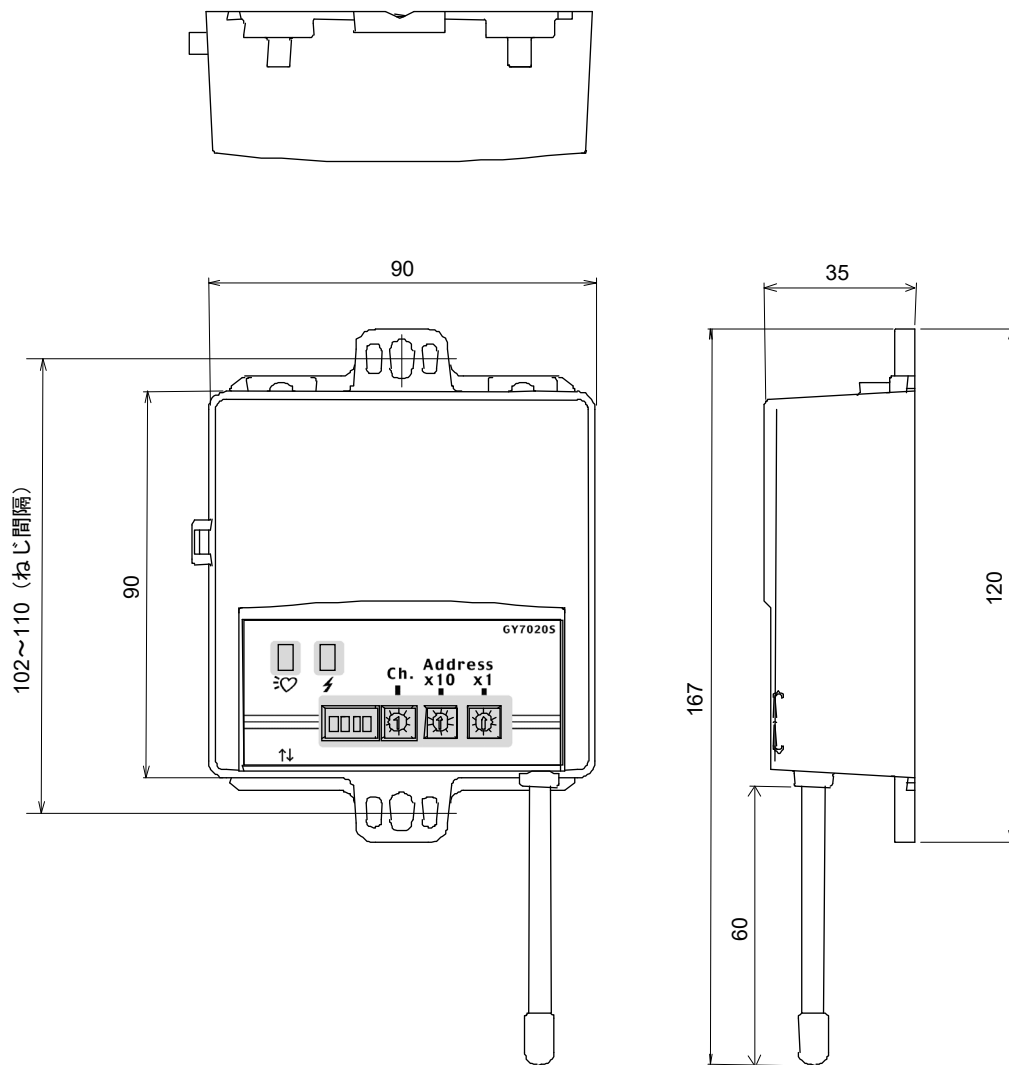


図4 RF受信機外形図 (単位 : mm)



## ■ 取 付

### ● 取付上の注意

天井高2.5 m～3 mの場合、ネオパネルワイヤレスとRF受信機の伝送距離は、約20 m以下です。  
ただし、電波にとって障害物となる金属構造物の影響により、短くなる場合があります。

### ● 取付方法と別途手配品

#### (1) RF受信機

取付方法	別途手配品
天吊棒に束線バンドで取付	束線バンド（現場手配）
天吊棒に金具取付	ネグロス社 形番69B（現場手配）
壁直接取付	M3～M5ねじ（現場手配）

#### (2) ネオセンサワイヤレス

取付方法	別途手配品
壁直接取付	—
JISボックス取付	ボックスカバー-JIS C8340 取付寸法66.7 mm（現場手配）

### ● RF受信機の施工時の注意

- RF受信機は金属面に取付可能ですが、アンテナは金属面から出るように設置してください。  
また、金属面で囲われる場所での設置は避けてください。
- RF受信機を金属面に取り付ける場合、ネオセンサワイヤレスは金属面に対して、RF受信機と同じ側になるように設置してください。
- 設備プレートなど、金属板の真上にRF受信機（アンテナ）を設置しないでください。
- 複数のRF受信機を設置する場合、機器同士は2 m以上離してください。
- 同一通信チャンネルのRF受信機を同一フロア内に密集して設置した場合には、通信がつながりにくくなる  
ことがあります。  
つながりにくい状況かどうかは、ループバックテストにより確認できます。
- アンテナに金属、ケーブルなどが接触しないようにしてください。
- PHSなど、他の電子機器から1 m以上離してRF受信機を設置してください。
- 通信ケーブル（コントローラ間通信ケーブル、LANケーブル、電源ケーブル）などは、RF受信機アンテナ  
から50 cm程度離してください。

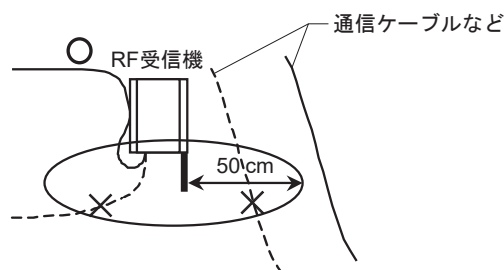


図5

- 天井板支持材からアンテナ先端までは10 cm以上離してください。
- 次のような場所への設置は避けてください。
  - 極端な振動がある場所
  - 腐食性ガスがある場所
  - 発熱物周辺など強い輻射を受ける場所
  - 電磁界の影響がある場所
  - 水がかかる場所

## ● RF受信機の取付手順

RF受信機の取付方法は3種類あります。  
使用環境、設置条件を考慮し、適正な方法で正しく取り付けてください。

### (1) 天吊棒に束線バンドで取付 (図10参照)

- ① スイッチカバーを手前に引っ張って外し、周波数チャンネル、グループアドレスおよびUTアドレスを設定します（「設定作業」の項参照）。  
設定が終わったら、スイッチカバーを取り付けます。

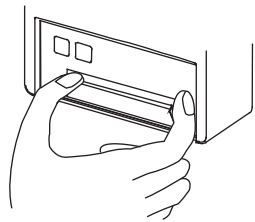


図6 スイッチカバーを外す

- ② 上下2か所にある突起部に空いた穴に束線バンドを通し、本体と天吊棒を締めつけて固定します。

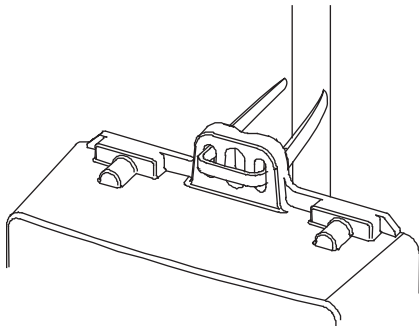


図7 束線バンド

- ③ コネクタ付きケーブル（形番940-SP-3088R）を本体の差込口に差し込み、反対側をコントローラのUSER I/Fコネクタに接続します。コネクタ付きケーブルの長さは最長50 mです。

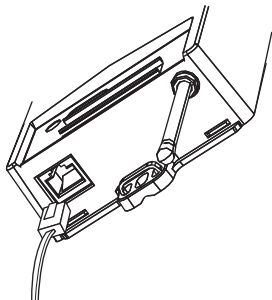


図8 コネクタ付きケーブル差込口

必要に応じて、本体左側面のケーブル固定用穴を利用してください。

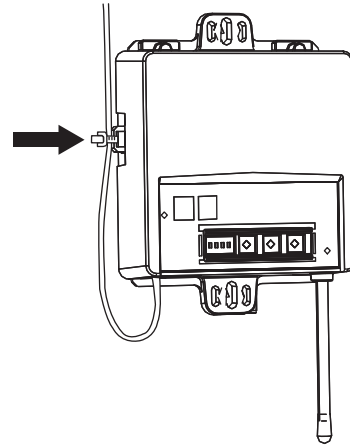


図9 ケーブル固定用穴

- ④ アンテナにケーブルや金属が接触していないか確認してください。

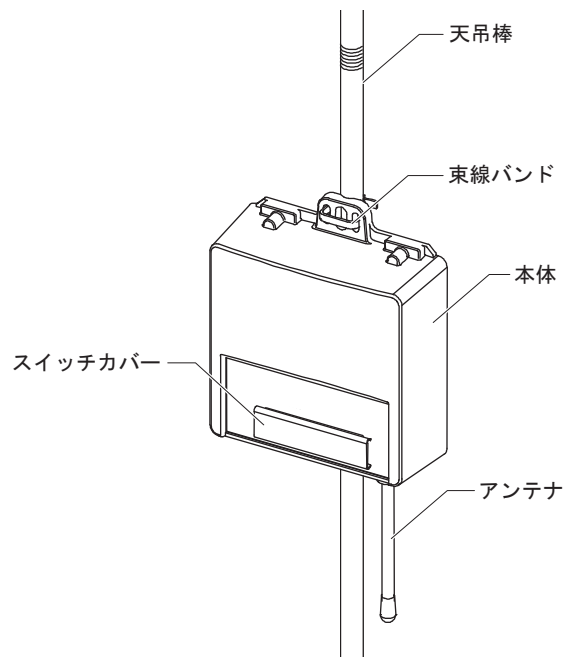


図10

## (2) 天吊棒に金具取付 (図11参照)

- ① スイッチカバーを手前に引っ張って外し、周波数チャンネルとグループアドレスおよびUTアドレスを設定します。設定が終わったら、スイッチカバーを取り付けます(「設定作業」の項参照)。
- ② 天吊棒にネグロス社 形番69B相当品(別途手配品) 2個を5~10 mm程度の間隔を空けて、はめ込み、固定します。
- ③ 形番69B金具に付属されているM5ねじで、本体と形番69B相当品を固定します。
- ④ コネクタ付きケーブル(形番940-SP-3088R)を本体の差込口に差し込み(図8参照)、反対側をコントローラのUSER I/Fコネクタに接続します。コネクタ付きケーブルの長さは最長50 mです。必要に応じて、本体左側面のケーブル固定用穴を利用してください(図9参照)。
- ⑤ アンテナにケーブルや金属が接触していないか確認してください。

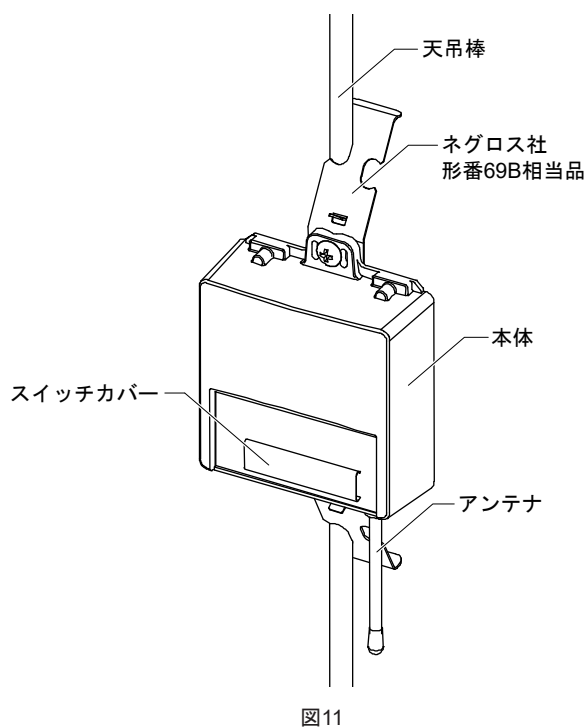


図11

## (3) 壁直接取付 (図13参照)

- ① スイッチカバーを手前に引っ張って外し、周波数チャンネルとグループアドレスおよびUTアドレスを設定します。設定が終わったら、スイッチカバーを取り付けます。  
(参照)『■ 設定作業』
- ② 本体をM3~M5ねじ(別途手配品) 2個で、壁に取り付けます。  
M3ねじで取り付ける場合は、突起部の左右の穴、どちらかを使用して取り付けてください。
- ③ コネクタ付きケーブル(形番940-SP-3088R)を本体の差込口に差し込み(図8参照)、コントローラのUSER I/Fコネクタに接続します。コネクタ付きケーブルの長さは最長50 mです。必要に応じて、本体左側面のケーブル固定用穴を利用してください(図9参照)。
- ④ アンテナにケーブルや金属が接触していないか確認してください。

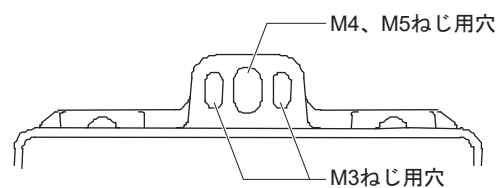


図12 ねじ用穴

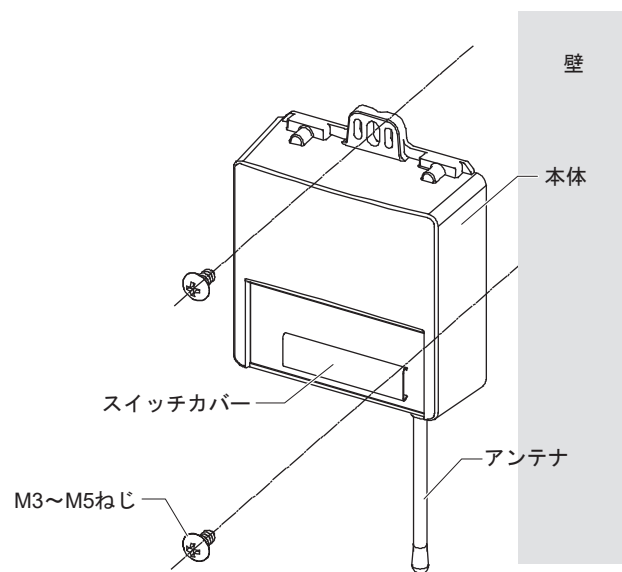


図13

## ● ネオパネルワイヤレスの施工時の注意（図14参照）

- RF受信機とネオセンサワイヤレスの間に、背の高い金属ロッカーなど（天井とのすき間が1 m以下になるようなもの）が設置されている場所へは、設置しないでください。  
ネオセンサワイヤレスは電波で通信を行うため、RF受信機が電波を受信できる範囲内でご使用ください。
- 本製品は空調用温度センサ/温湿度センサです。測温に適した場所に設置してください。
- ネオセンサワイヤレスとRF受信機の間に、壁や背の高い棚などがない場所に設置してください。
- パーティションに設置する場合は、できるだけパーティション上部に近づけてください。
- 複数のRF受信機を設置する場合、機器同士は2 m以上離してください。
- 同一通信チャンネルのRF受信機を同一フロア内に密集して設置した場合には、通信がつながりにくくなる場合があります。  
つながりにくい状況かどうかは、ループバックテストにより確認できます。
- 四方を金属に囲われる（メッシュ板を含む）場所では伝送距離が短くなる場合があります。
- 次のような場所への設置は避けてください。
  - 極端な振動がある場所
  - 腐食性ガスがある場所
  - 発熱物周辺など強い輻射を受ける場所
  - 電磁界の影響がある場所
  - 水がかかる場所
- 本体内部に切り粉や電線くずが入らないようにしてください。
- カバー着脱時は、検出素子を破損させないように注意してください。
- 設置後、センサを周囲の雰囲気要充分なじませてください。

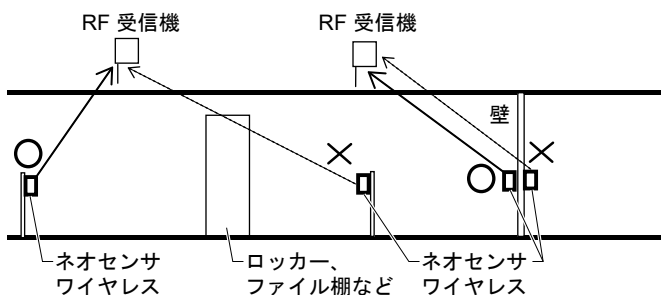


図14

## ● カバーの着脱

- 重要 !!**
- ネオセンサワイヤレスのカバー裏には記入ラベルがあります。  
設定したアドレス、周波数チャンネル、電池交換日を記入してください。
  - プリント板組立に取り付けられている温度検出素子を曲げないようにしてください。  
精度が狂う原因になります。

- (1) 取外  
本体上面内部のばね部を細棒などにより押し込んで、外します。
- (2) 取付  
本体ユニット下部にあるカバー取付穴（2か所）にカバー爪（2か所）を差し込んで、本体ユニット上部のばね部で固定します。

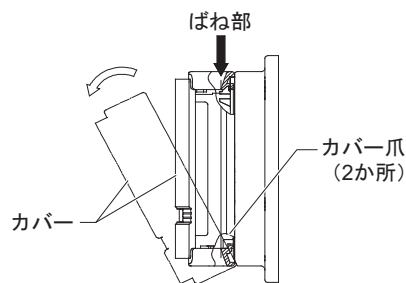


図15 カバーの着脱

## ● 取付手順

ネオセンサワイヤレスの取付方法は2種類あります。  
使用環境や設置条件を考慮し、適正な方法で正しく取り付けてください。

### (1) 壁直接取付 (図16参照)

- ① 取付プレートを付属の木ねじ2本で壁面に取り付けます。(取付ねじ間隔は、66 mm、66.7 mmのどちらでも構いません)
- ② 対応するRF受信機の電源が投入されていることを確認します。
- ③ 本体カバーを外します。(図15参照)
- ④ 取付プレートに本体ユニットを差し込み、本体ユニット上部に仮止めされている取付ねじを締めて固定します。
- ⑤ 周波数チャンネル、グループアドレスは対応するRF受信機と同じに設定します。
- ⑥ RF受信機に2台のセンサ(ネオセンサワイヤレス温度/温湿度センサ、ネオパネルワイヤレスのいずれか)が接続される場合にはセンサを特定するためのセンサアドレスを設定します(このときの設定は「0」または「1」とし、センサごとに違うアドレスに設定してください)。
- ⑦ 本体の極性表示を確認して正しい方向に電池を入れます。
- ⑧ カバーをします。(図15参照)

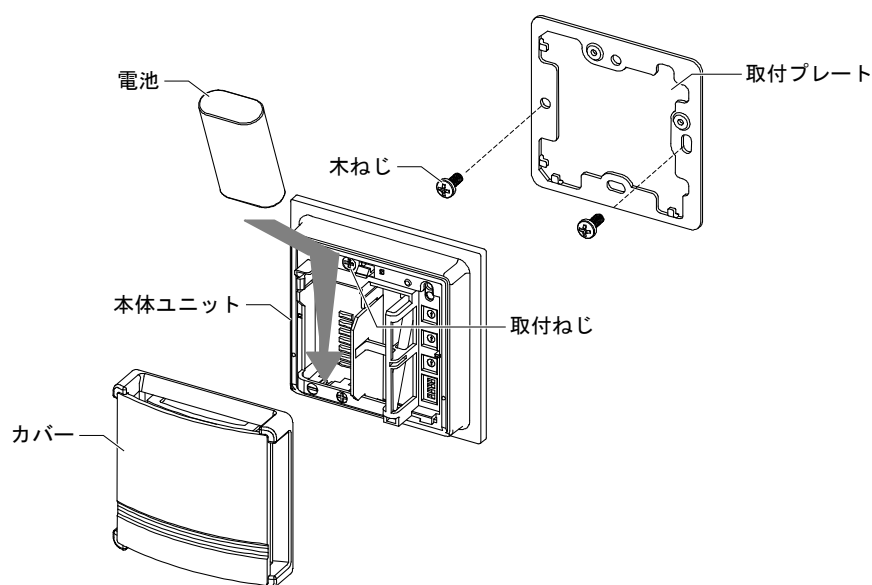


図16 取付方法 (壁直接取付時)

## (2) JISボックス取付 (図17参照)

- ① 取付プレートを壁内のボックスカバー (JIS C8340 取付寸法66.7 mm使用 市販品) に付属ねじで取り付けます。
- ② 対応するRF受信機の電源が投入されていることを確認します。
- ③ 本体のカバーを外します。(図15参照)
- ④ 取付プレートに本体ユニットを差し込み、本体ユニット上部に仮止めされている取付ねじを締めて固定します。
- ⑤ 周波数チャンネル、グループアドレスは対応するRF受信機と同じに設定します。
- ⑥ RF受信機に2台のセンサ (ネオセンサワイヤレス温度/温湿度センサ、ネオパネルワイヤレスのいずれか) が接続される場合にはセンサを特定するためのセンサアドレスを設定します (このときの設定は「0」または「1」とし、センサごとに違うアドレスに設定してください)。
- ⑦ 本体の極性表示を確認して正しい方向に電池を入れます。
- ⑧ カバーをします。(図15参照)

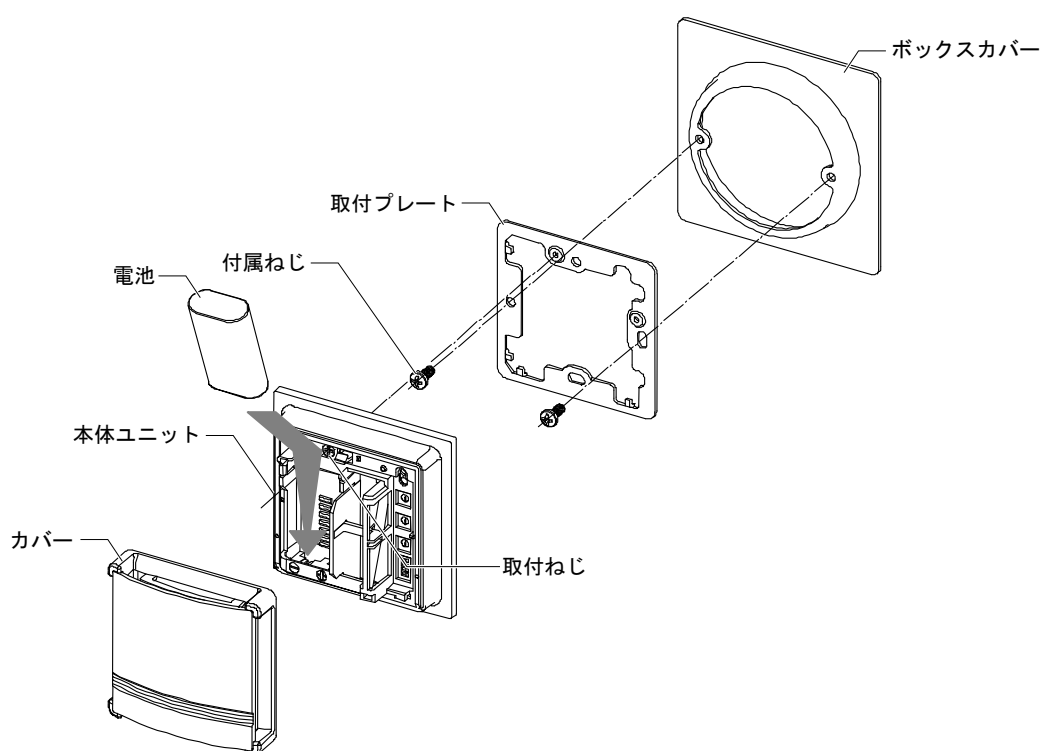


図17 取付方法 (JIS取付ボックスで取付時)

## ■ 設定作業

RF受信機とネオセンサワイヤレスを対応させるため、それぞれに無線の周波数チャンネルとグループアドレスを設定します。

対応するRF受信機とネオセンサワイヤレスには、同じチャンネルとグループアドレスを設定してください。

### ● 概要

#### ● 周波数チャンネル

周波数チャンネルは、「1」～「9」までのいずれかを設定してください。

#### ● グループアドレス

同じ周波数チャンネル内で、対応するセンサと受信機を特定するために設定します。

「1」～「99」の99アドレスが設定できます。

#### ● UTアドレス (RF受信機のみを設定)

ネオパネル2 (形番QJ-1301)、またはネオパネル (形番QY7205 / 形番QY7215 / 形番QY7225) と同時接続した場合に上位コントローラがネオパネルかRF受信機かを特定するために設定します。

「1」、または「2」のアドレス設定ができます。

#### ● センサアドレス

(ネオセンサワイヤレスのみを設定)

RF受信機には最大2台のセンサ(ネオセンサワイヤレス/ネオパネルワイヤレス)が接続可能であり、センサを特定するためにセンサ側でアドレスを設定します。

「0」、または「1」のアドレス設定ができます。

**重要 !!** ●周波数チャンネル、グループアドレス設定のため、小さなマイナスドライバー (2.0～2.2 mm 巾) を用意してください。

●ワイヤレス通信の混信を防ぐため、次の設置条件を守ってください。

●同一フロアで使用するネオセンサワイヤレスは、1チャンネル当たり30台以下としてください。

(RF受信機に2台目として接続するネオセンサワイヤレスも含まれます。)

30台を超える場合は、周波数チャンネルを変更してください。

●同一フロアで使用する周波数チャンネルは、最大3チャンネル以下としてください。

●上・下階フロア、2階上・2階下のフロアとはチャンネルおよびグループアドレスが重複しないようにしてください。

●本製品は、対応するRF受信機の電源が投入されている状態を確認してから、電源を投入してください。

対応するRF受信機がない状態が続くと電池を消耗してしまいます。

●ネオセンサワイヤレスのカバー裏に記入ラベルがあります。

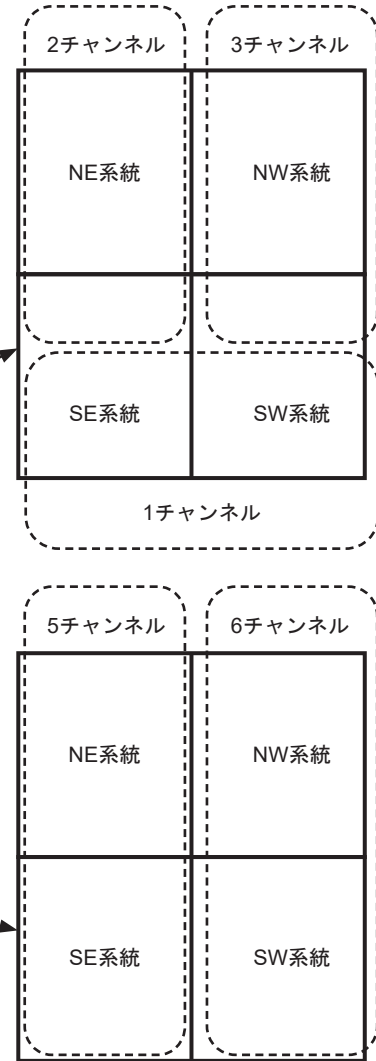
設定した周波数チャンネル、グループアドレス、センサアドレスをここへ記入してください。



表2 チャンネル・グループの割付例

階	フロア当たりのネオセンサワイヤレス設置台数									
	1~30台まで		1~60台まで			1~90台まで				
	チャンネル	グループ	チャンネル	グループ	チャンネル	グループ	チャンネル	グループ	チャンネル	グループ
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
19F	1	61~90	5	6	31~60	1	2	3	1~30	
18F	9	31~60	3	4	31~60	7	8	9	61~90	
17F	8	31~60	1	2	31~60	4	5	6	61~90	
16F	7	31~60	7	8	1~30	1	2	3	61~90	
15F	6	31~60	5	6	1~30	7	8	9	31~60	
14F	5	31~60	3	4	1~30	4	5	6	31~60	
13F	4	31~60	1	2	1~30	1	2	3	31~60	
12F	3	31~60	7	8	61~90	7	8	9	1~30	
11F	2	31~60	5	6	61~90	4	5	6	1~30	
10F	1	31~60	3	4	61~90	1	2	3	1~30	
9F	9	1~30	1	2	61~90	7	8	9	61~90	
8F	8	1~30	7	8	31~60	4	5	6	61~90	
7F	7	1~30	5	6	31~60	1	2	3	61~90	
6F	6	1~30	3	4	31~60	7	8	9	31~60	
5F	5	1~30	1	2	31~60	4	5	6	31~60	
4F	4	1~30	7	8	1~30	1	2	3	31~60	
3F	3	1~30	5	6	1~30	7	8	9	1~30	
2F	2	1~30	3	4	1~30	4	5	6	1~30	
1F	1	1~30	1	2	1~30	1	2	3	1~30	

建物断面図



建物平面図

## ● RF受信機

重要!! ●UTアドレス以外のディップスイッチは、変更しないでください。

- 周波数チャンネル、グループアドレスを設定する場合は、ロータリスイッチが確実に番号の位置に合うようにしてください。

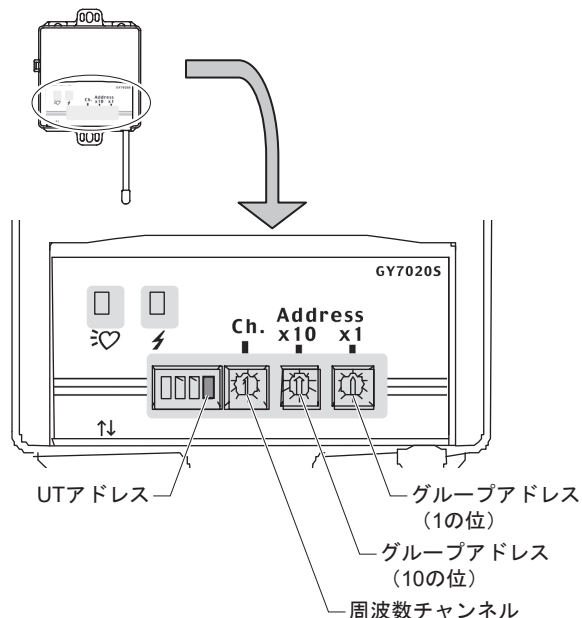


図18 各スイッチの位置 (RF受信機)

- 周波数チャンネル  
小さなマイナスドライバを使用し、ロータリスイッチで設定します。  
9チャンネルが設定可能です。
- グループアドレス  
小さなマイナスドライバを使用し、ロータリスイッチで設定します。  
「1」から「99」までの設定が可能です。
- UTアドレス  
小さなマイナスドライバを使用し、ディップスイッチの4ビット目が下でUTアドレス「1」、上でUTアドレス「2」の設定となります。  
その他のビットはすべて下で固定です (図19参照)。

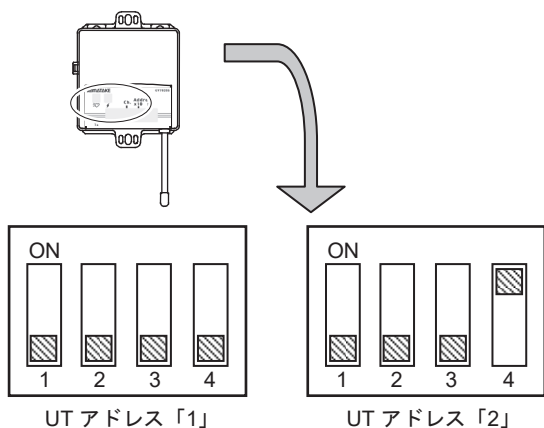


図19 UTアドレススイッチ拡大図

## ● ネオセンサワイヤレス

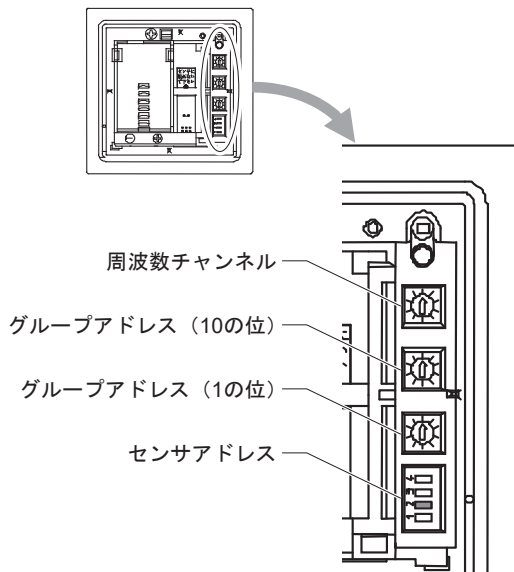


図20 各スイッチの位置 (ネオセンサワイヤレス)

- 周波数チャンネル  
小さなマイナスドライバを使用し、ロータリスイッチで設定します。  
9チャンネルが設定可能です。
- グループアドレス  
小さなマイナスドライバを使用し、ロータリスイッチで設定します。  
「1」から「99」までの設定が可能です。
- センサアドレス  
小さなマイナスドライバを使用し、ディップスイッチの2ビット目が右でセンサアドレス「0」、左でセンサアドレス「1」の設定となります。  
その他のビットはすべて右で固定です。(図21参照)

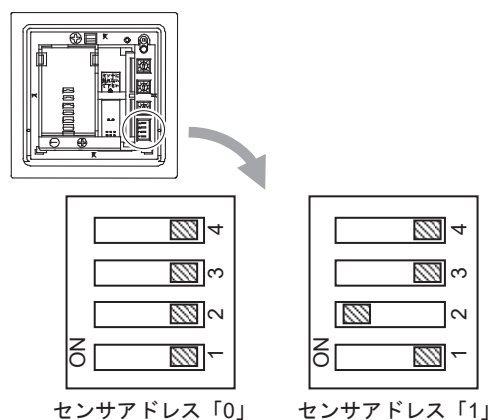


図21 センサアドレススイッチ拡大図

重要!! ●センサアドレス以外のディップスイッチは、変更しないでください。

- 周波数チャンネル、グループアドレスを設定する場合は、ロータリスイッチが確実に番号の位置に合うようにしてください。

### ● 組み合わせ確認

ネオセンサワイヤレスとRF受信機の周波数チャンネルの設定、グループアドレスの設定が完了したあと、その組み合わせで実際に計測値が正しく変化することを確認してください。

**重要!!** ●システムチェック時は、ネオパネルワイヤレスとRF受信機の組み合わせで計測値を変化させ、組み合わせが正しいことを確認してください。中央監視の計測値が正しく表示されていることを確認するだけでは、誤って他システムと接続した場合に、その間違いに気が付けないことがあります。

### ● ループバックテスト

ループバックテストとは、RF受信機とネオパネルワイヤレスの接続状態を確認するテストです。

ネオセンサワイヤレスのボタン (①) を3~4秒押ししてください。

LED (②) の動作により、現在の接続状態を判断できます。ボタンを押してから、約10秒以内に判定結果が出ます。（『LED』参照）電波状況は変動するため、数回テストを行うようにしてください。

**重要!!** ●ループバックテスト時にボタンを5秒以上押さないでください。工場検査モードに切り換わり、電池を消耗するおそれがあります。5秒以上押した場合、電池の抜き差しをしてください。

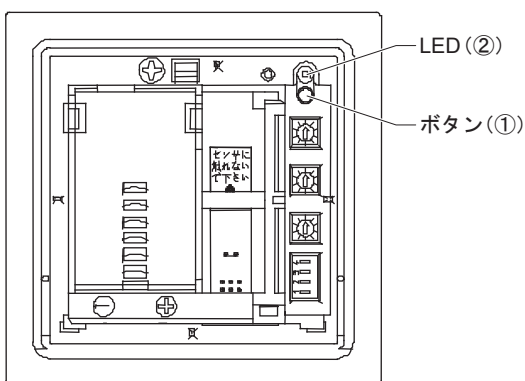


図22 LEDとボタンの位置（ネオセンサワイヤレス）

## ● LED

RF受信機の前面と、ネオセンサワイヤレスのカバー内にはLEDがあります。

LEDは、受信機の状態や通信の状態を表します。

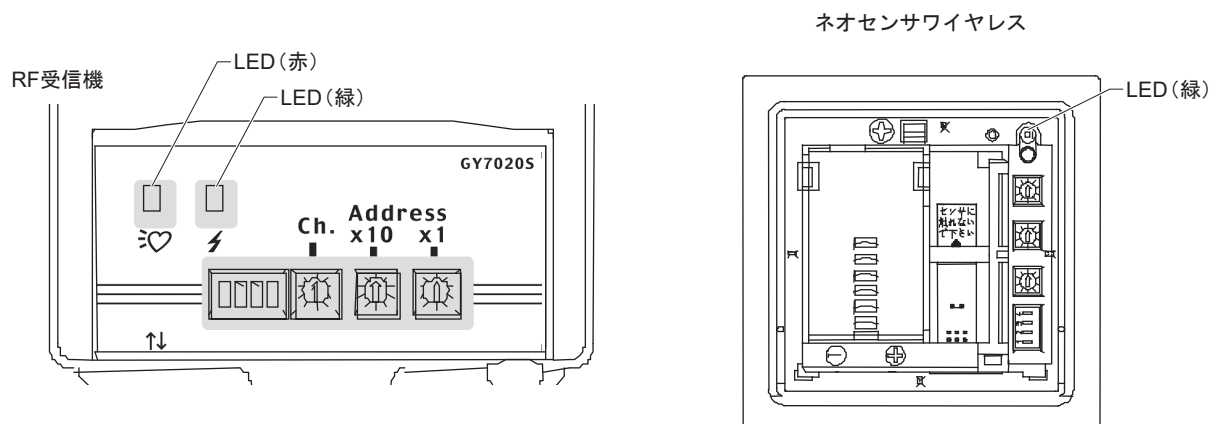


図23 LEDの位置

表3 RF受信機

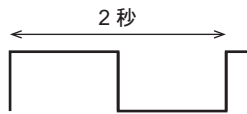

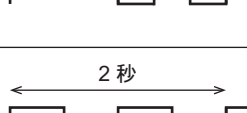

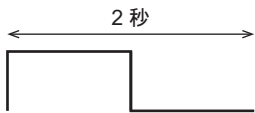
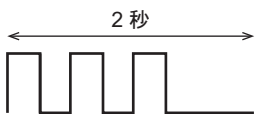
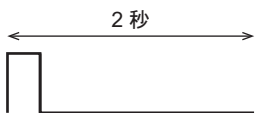
LED	対象	状態	備考	パターン
赤	受信機の状態	正常	—	1秒点灯・1秒消灯の繰り返し 
		軽故障1	コントローラの子機の台数が2台（初期設定）であるが、実際は1台接続で使用ワイヤレス通信断状態または電池電圧低下検出状態	1秒点灯+1回点滅の繰り返し 
		軽故障2	ケーブル断線などによるリモコンバス通信断状態	0.5秒点灯・0.5秒消灯の繰り返し 
		初期シーケンス	ケーブル断線などによるリモコンバス通信断、またはコントローラのファイル設定ミスなどにより、コントローラと受信機間のリモコン通信が確立していない状態	0.8秒点灯・0.2秒消灯の繰り返し 
		重故障	—	点灯
緑	ネオセンサワイヤレスとの通信	受信	ネオセンサワイヤレスからの送信を受信のみした場合	1回点滅 —
		送受信	ネオセンサワイヤレスからの送信を受信し、応答を送信した場合	2回点滅 —

表4 ネオセンサワイヤレス

LED	対象	状態	パターン
緑	電池投入時	—	5秒間点灯後消灯 —
	ループバック テスト時	同一チャンネル当たりの設置台数が上限を 超えている場合 (周波数チャンネルを変更してください)	1秒点灯・1秒消灯 を合計5回繰り返す 
		良好	2秒間に3回の点滅 を合計5回繰り返す 
		設置位置の電波状況が悪く、時間内に電波 が届かない状態 (設置位置をずらしてください)	2秒間に1回の点滅 を合計5回繰り返す 

## ■ 保 守

### ● リチウム電池交換（ネオセンサワイヤレス）

使用開始（電池を入れたとき）から3年以内に、リチウム電池を交換してください。  
リチウム電池はデジタルカメラ用リチウム電池（形番CR-V3）1本をご使用ください。

- (1) センサのカバーを外します（図15参照）。
- (2) 電池上部の切り欠きに指を入れ、古い電池を引き抜きます。
- (3) 本体の電極表示（+と-）を確認して、新しい電池を入れます。
- (4) カバーをします。

**重要 !!** ●ネオセンサワイヤレスのカバー裏には記入ラベルがあります。  
電池交換日を記入してください。

## ⚠ 注 意



本製品のバッテリーを交換する場合は、取扱説明書で取付方法を確認のうえ、正しく取り付けてください。

- 指定の同一タイプのものを使う。
- バッテリーの極性(+、-)を逆にしない。

上記の注意事項を守らないと、バッテリーの発熱、破裂、液漏れの原因となるおそれがあります。

● 故障かな？と思った場合の確認方法

異常状態	点検箇所	確認内容	対処
計測値がセンサエラーとなる。	コントローラの設定	温度センサ種別が正しく設定されているか。	温度センサ種別をワイヤレスセンサとする。
	RF受信機、ネオセンサワイヤレスの設定	ペアとなるRF受信機、ネオセンサワイヤレスのチャンネル、グループが一致しているか。	ペアとなるRF受信機、ネオセンサワイヤレスのチャンネル、グループを一致させる。
		他の受信機、温度センサ/温湿度センサのペアとチャンネル、グループが重複していないか。	重複しないよう設定をし直す。
		センサアドレスが重複していないか。 (RF受信機1台にネオセンサワイヤレスを2台接続する場合)	重複しないよう設定をし直す。
		チャンネル、グループ設定用のロータリスイッチが正しい位置にあるか。	ロータリスイッチを正しい位置で止める。
		センサアドレス用のディップスイッチが正しい位置にあるか。	ディップスイッチを確実に切り替える。
	無線通信状態	ネオセンサワイヤレスをRF受信機に近づけたとき、電波が届いているか。 (ループバック機能で確認)	ネオセンサワイヤレス、またはRF受信機の設置場所を変更する。
	電池の消耗	電池電圧が低下していないか。 (コントローラのポイント、またはテスターで確認)	電池を交換する。
	RF受信機の通信線	コントローラとの接続は正しいか。	正しい接続か所に接続する。
		コネクタの接触不良はないか。	コネクタにカチッと音がするまではめ込む。
		断線していないか。	通信線を交換する。
	RF受信機のアンテナ	アンテナの破損やアンテナと本体との接続部にがたつきがないか。	RF受信機を交換する。
アンテナに金属や配線などが接触していないか。		アンテナから金属や配線を遠ざけるか、RF受信機の設置位置を変更する。	
RF受信機の設定	UTアドレスの重複はないか。 (ネオパネルワイヤレスと2台接続時)	重複しないよう設定をし直す。	
計測値が上下限值に貼り付いたまま変化しない。	周囲環境	周囲温湿度が計測範囲内か。	ネオセンサワイヤレス素子、または計測回路が断線、または短絡している可能性が高いので、ネオセンサワイヤレスを交換する。
計測値がずれている。	計測精度	計測誤差は精度の範囲内か。	誤差が大きい場合はコントローラで補正するか、ネオセンサワイヤレスを交換する。
計測値が変動する。	周囲環境	周囲の温湿度が安定しているか。	周囲温湿度が安定している場合は、ネオセンサワイヤレスを交換する。

■ 廃 棄

本製品が不用になったときは、産業廃棄物として各地方自治体の条例に従って適切に処理してください。  
また、本製品の一部、または全部を再利用しないでください。

本ページは、編集の都合により追加されている白紙ページです。



本ページは、編集の都合により追加されている白紙ページです。

ネオスタット、ネオセンサ、ネオパネル、FP3(エフピースリー)、Inflex、savic-netはアズビル株式会社の商標です。  
LonTalk®は、米国およびその他の国で登録されたEchelon社の商標です。

**アズビル株式会社** ビルシステムカンパニー

**azbil**

[ご注意] この資料の記載内容は、予告なく変更する  
場合もありますのでご了承ください。

お問い合わせは、コールセンターへ

**0120-261023**

<https://www.azbil.com/jp/>

ご用命は、下記または弊社事業所までお願いします。